

「運動部活動の意義に関する意識調査（2次報告）」

～保護者に対するアンケート調査を通して～

福岡県中学校体育連盟 研究部

大牟田市立宮原中学校 教諭 森 潤一郎

〈提案趣旨〉

福岡県中学校体育連盟研究部（以下研究部）では、これまでに運動部活動に関するさまざまな研究を通して、県内の中学校に運動部活動の在り方について発信してきた。そんな中、平成30年3月、スポーツ庁より「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（以下ガイドライン）が策定された。福岡県では平成30年12月「福岡県運動部活動の在り方に関する指針」（福岡県教育委員会）が策定された。これらを受け、各自治体においても運動部活動におけるガイドラインの作成等が実施されている現状がある。

そこで、ガイドラインを受けての学校職員の反応や保護者の運動部活動に対する意識を調査することで、運動部活動の意義や価値を示していくことができるのではないかと考えこの研究に着手した。

1 はじめに

（1）研究部のこれまでの取組

①平成30年度の研究

「運動部活動の意義に関する意識調査」学校関係者（運動部活動顧問など）に対して（1年次）

昨年度は、本研究の1次調査として、学校関係者を対象に、運動部活動の運営に関する調査を行った。各地区の研究部より県内中学校（374校）へアンケートを実施し、1342名から回収して分析を行った。

②令和元年度の研究

「運動部活動の意義に関する意識調査」保護者に対して（2年次）

本年度は、本研究の2次調査として、運動部活動に所属している生徒の保護者を対象に、各地区の研究部より県内各中学校（306校）へアンケート調査を行い、881名から回収し分析を行った。

（2）運動部活動の意義とは

文部科学省「我が国の文化施策～心と体の健康とスポーツ」（平成10年）によると、『運動部活動は、学校教育の一環として、スポーツに興味と関心を持つ同好の児童生徒が、教員等の指導の下に、自発的・自主的にスポーツを行うものであり、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しさや喜びを味わい、学校生活に豊かさをもたらす意義を有している。（中略）このように、運動部活動は生徒のスポーツ活動と人間形成を支援するものであることはもとより、その適切な運営は、生徒の明るい学校生活を一層保障するとともに、生徒や保護者の学校への信頼感をより高め、さらには学校の一体感の醸成にもつながるものである』と示してある。

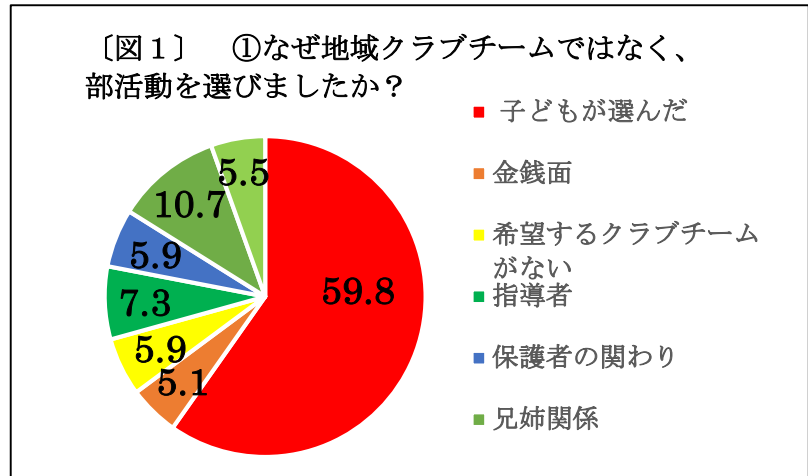
このことから、運動部活動は生徒が自発的・自主的活動に行う活動であり、生徒のスポーツ活動と人間形成を支援するものであることがわかる。

2 保護者への運動部活動の意義に関する調査についての結果

(1) 運動部活動を選んだかについて

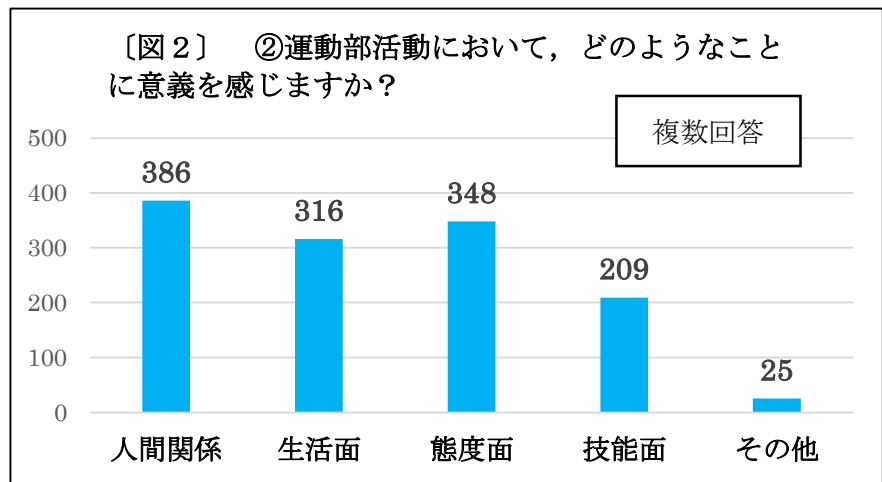
今回の調査対象である、運動部に所属している生徒の保護者に対して「なぜ、地域のクラブではなく、部活動を選びましたか？」を調査したところ「子どもが選んだ」が全体の 59.8%、次に多かったのが「兄弟関係」10.7%であった。その次に、「指導者」7.3%と続いた。

〔図1〕



(2) 運動部活動の意義について

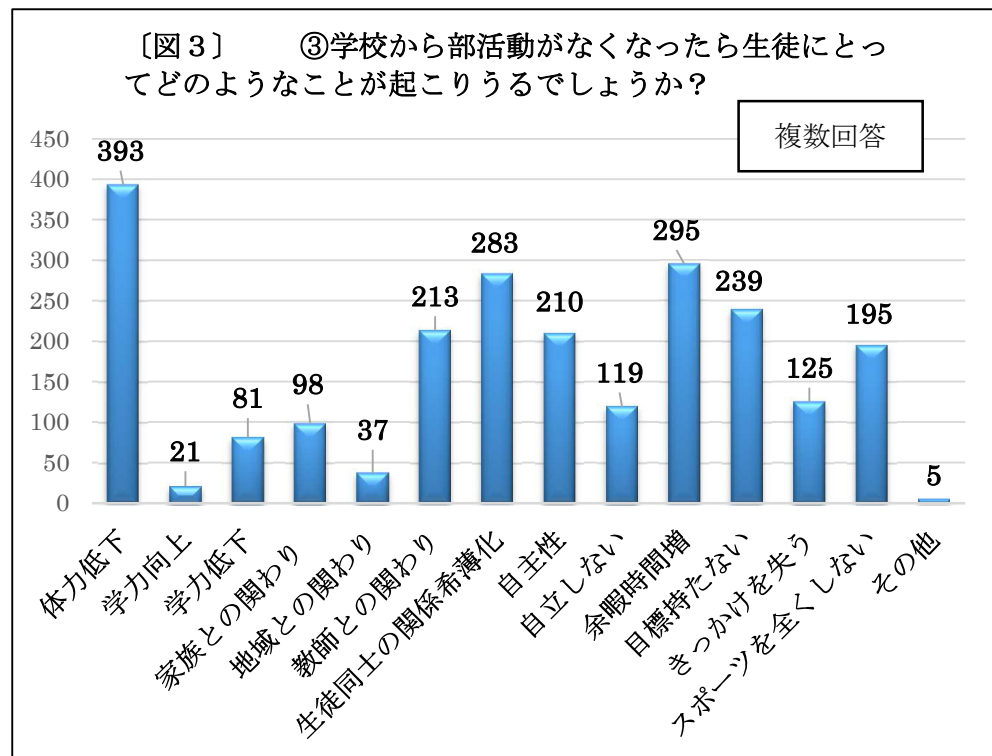
「運動部活動において、どのようなことに意義を感じますか？」(複数回答可)を調査したところ、1番多かったのが「人間関係」の386名。次に多かったのが「態度面」の348名。その次に多かったのが「生活面」の316名であった。「技能面」は4番目の209名であった。〔図2〕



(3) 学校から運動部活動がなくなったらについて

「学校から部活動がなくなったら？」

(複数回答可)を調査したところ、1番多かったのは「体力の低下」393名であった。次に多かったのは「余暇時間増」295名であり、その次に多かったのが「生徒同士の関係希薄化」283名であった。さらに「目標を持たない」「教師との関わり」が続いた。〔図3〕



(4) 運動部活動がさらに魅力的な活動になるために、どのようなことを期待しますか？

様々な期待される内容について、以下のような項目にまとめて分類をした。

分類項目	保護者アンケート回答
生徒の人的成長への期待	<input type="checkbox"/> 中学生活の中で先輩・後輩の関係を学んでほしい <input type="checkbox"/> 挨拶や礼儀 <input type="checkbox"/> 子どもたちが主体性を持って活動できるように <input type="checkbox"/> 人間関係，生活態度，目標設定，仲間を思いやることを学べる <input type="checkbox"/> 普通の教育の一環として，地元の友だちや仲間作りでよいと考える <input type="checkbox"/> 達成感を感じてほしい <input type="checkbox"/> 座学では学べないことを学んでほしい <input type="checkbox"/> 地域に応援される部活 <input type="checkbox"/> 勝敗重視ではなく3年間の努力が報われるような活動
学校への期待	<input type="checkbox"/> 運動部活動数の増 <input type="checkbox"/> 社会体育との保護者が連携して子どもや先生をサポート <input type="checkbox"/> 保護者の負担減 <input type="checkbox"/> 学校が送り迎えをする仕組みを作って欲しい <input type="checkbox"/> 部活動の目標を明確に <input type="checkbox"/> 先生の残業を減らす
指導者への期待	<input type="checkbox"/> 指導者増（外部指導者も含む） <input type="checkbox"/> 外部コーチの充実 <input type="checkbox"/> 専門種目外の先生への指導者講習 <input type="checkbox"/> 科学的トレーニング <input type="checkbox"/> 指導者の報酬額の見直し
その他	<input type="checkbox"/> 適切な練習量と休養 <input type="checkbox"/> 練習環境の充実 <input type="checkbox"/> 活動時間を長く <input type="checkbox"/> 大会の増加

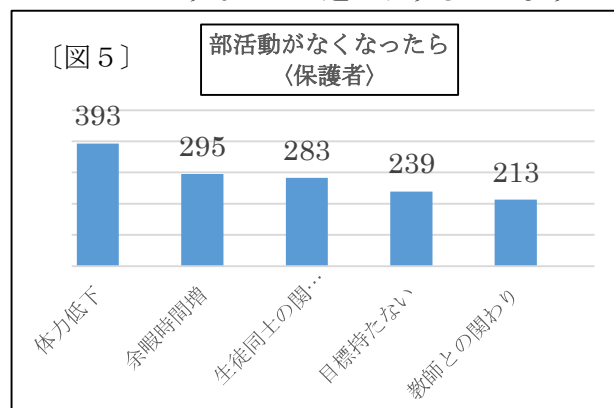
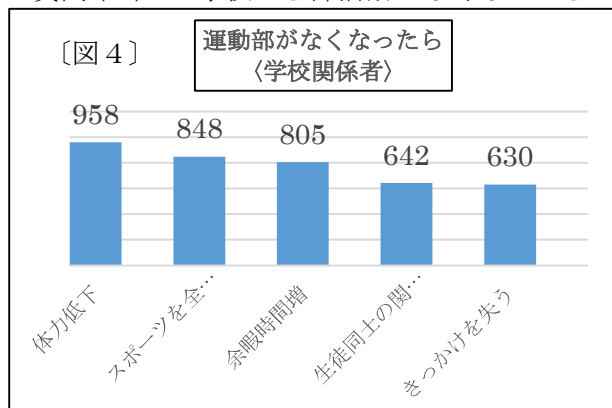
3 考察

今回の保護者へのアンケート調査により、以下の質問項目毎に分析することで、保護者が考える運動部活動への期待や意義が明らかになった。

質問（1）の「なぜ、地域クラブチームではなく部活動を選びましたか？」に対し、「本人が選んだ」という回答が半数以上を占めた。地域クラブチームか部活動かの選択に対しても、本人の意思が大きく反映していることがわかった。部活動は本来、生徒自身の興味・関心に応じて主体的に参加する活動である。本人の意思が尊重されていることは、部活動の意義を考える上で重要な結果ではないだろうか。他の回答として、地域クラブへの「送迎が難しい」という保護者の都合や「兄弟関係」で選んだという内容も多くあげられていたことは、生徒の自発性や自主性だけでなく、保護者や本人の家族の事情も影響を及ぼしていると考えられる。

質問（2）の「運動部活動において、どのようなことに意義を感じますか？」に対する理由で一番多く答えられたのは「人間関係」、次いで「態度面」という結果であった。つまり、多くの保護者が運動部活動に対して求めていることは、「人間関係」や「態度面」、「生活面」など人間形成に関することであることがわかった。

質問（3）の「学校から部活動がなくなったら生徒にとってどのようなことが起こりうるでしょうか？」



については、保護者と昨年アンケートをとった学校関係者と比較をしてみた。両者ともに「体力低下」や「生徒同士の関係づくり」が上位回答にあげられていた。保護者・学校関係者ともに運動部活動は生徒にとって体力作りや人間関係づくりに貢献していると考えているのではないだろうか。また、「余暇時間の増加」を生徒がどのように活用するかということを心配しているという結果も出た。〔図4〕〔図5〕

質問（4）の「運動部活動がさらに魅力的な活動になるために、どのようなことを期待しますか？」では、自由回答によりさまざまな意見が出された。その意見を「生徒の人的成長」・「学校」・「指導者」・「その他」に分類してまとめたが、保護者は、運動部活動に対して「生徒の人的成長」を願うことや、それを支えるものや環境として「学校」や「指導者」に対しても期待していることがわかった。特に「挨拶や礼儀を身に付けてほしい」「子どもたち自身がもっと主体的に部活動に参加してほしい」「達成感を感じてほしい」「座学では学べないことを学んでほしい」ことなどは、スポーツ庁より出されたガイドラインに示された策定の趣旨等に合致する内容であるといえる。

- 知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育む、「日本学校教育」の意義を踏まえ、生徒がスポーツを楽しむことで運動習慣の確立を図り、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を図るとともに、バランスのとれた心身の成長と学校生活を送ることができるようにすること。
- 生徒の自主的、自発的な参加により行われ、学校教育の一環として教育課程との関連を図り合理的でかつ効率的・効果的に取り組むこと。
- 学校全体として運動部活動の指導・運営に係る体制を構築すること。

「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」より引用

4 研究のまとめ

今回の調査結果から、多くの保護者は運動部活動が学校教育において大変意義深いものであると捉えており、人間形成の基盤となる人間関係づくりや態度面・生活面等に期待していることがわかった。しかしながら、今日の社会・経済の変化等により、教育等に関わる課題が複雑化・多様化し、学校や教師だけでは解決することができない課題が増えている。運動部活動を持続可能なものとするためには、各自のニーズに応じた運動・スポーツを行うことができるよう、さらに地域のスポーツ指導者などの部活動指導員及び外部指導者を活用するとともに、地域スポーツと連携を図っていく必要があると感じる。

また、運動部活動の在り方に関しては合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進の取り組みを進めることが大切だと考える。知・徳・体のバランスのとれた指導を目指し、生徒が心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を図ること。生徒の自主的・自発的な参加により行われ、合理的でかつ効率的・効果的に取り組むことが大切と考える。運動部活動の意義を軽視することなく、持続可能な部活動の運営を通して生徒の主体的な活動の充実につなげていかなければならない。そして、このことは保護者の運動部活動に対する期待に応えることにもなると考える。

本研究は、運動部活動に参加している生徒の保護者への質問紙調査であった。今後もよりよい運動部活動の意義や価値を示していくために、学校関係者や保護者に加え、運動部活動参加生徒への調査も必要であると考え、次年度以降も引き続き調査を続けていきたい。